

土と基礎に関する 技術者のための英語

6. コントラクターから見た技術英語の実際 III

—英語研修について—

か とう いう ろう
加 藤 逸 郎*

6.1 はじめに

海外工事で使われる英語は文書英語 (Written English) と会話英語 (Spoken English) に分けられ、前号まででは主として文書英語について述べられているので、本章では、A社が過去13年間、延べ800人の職員に行ってきた会話英語の研修制度、海外での失敗、苦労話等を紹介する。

現在、A社の海外派遣者は約350名であり、駐在先は、アメリカ、カナダ、イギリス、オランダ、フランス、中国、香港、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア、スリランカ、タイ、トルコ、オーストラリア、サイパン等全世界にわたっている。これをサポートする海外事業本部の職員は約200名であり、いつでも海外に派遣できる体制になっている。

海外工事に当たっては、人の面での国際化が最も重要であり、国際人の育成が求められる。ところが、言語、風俗、習慣、宗教等が異なり、先進国から発展途上国にまたがっている海外工事への対応は容易ではない。現在の円高とも相まって、一現場に5人も10人も日本人職員を派遣することは採算の面でも難しくなっており、また、外国で就労するために必要な長期ビザ、労働許可証を日本人が取得することもその国の事務系および技術系職員を雇用する規制がだんだん厳しくなって、はなはだ困難である。そのため各現場は1人か2人の日本人で管理せざるを得ない場合もあり、このことから派遣された日本人職員はできるだけ早く現場に溶け込む必要がある。

派遣された日本人職員は、現地の政治経済、法律、風俗、文化、習慣を知り、それに適応しながら工事完成の目標に向かって、発注者、コンサルタント、政府機関、職員、下請と接触交渉し、比較的不慣れな契約に従って、工事の運営管理を行ってゆかねばならない。

そのためには、ほとんどの国で適用する英語をある程度マスターして、その国の政治経済、文化等への理解、認識を深めるために必要な基礎知識と語学力を取得する努力が必要であり、かつ現地に溶け込むために現地の人々と相互理解を深め友好関係を築く努力が必要となり、既に派遣された職員の長期滞在、土着化が求められるようになっている。したがって、現地に長く住み、現地の文化、伝統を尊

重し、施主、下請等と気心を分かちあえる人材、現地の慣行、システムを熟知し現地の人々に愛される人材、いわゆる国際人の育成が求められる。

6.2 国際人の育成

元アメリカ駐日大使のライシャワー博士が国際人のことを英語で「Citizens of the World」(世界市民)と述べている。世界市民といっても日本人である事には変わりはないが、世界各国の国際的政治経済関係が複雑かつ相互依存度が高くなっている現在、どこの国もひとりでは成り立たないことを知っていなければならない。

日本人が日本人らしさを失う事なく外国人の考えを知ること、更に、他国民のものの見方、思想を理解し、同レベルでこれらの考えを受け入れることが国際人として必要であり、意志の疎通をはかることから始めるために共通の言語として、世界的に通用している「英語」の研修が必要となるであろう。

6.3 英語研修のねらい

海外で工事、事業を進める上で職員に要求される能力として

- (1) 業務能力
- (2) 異文化適応力
- (3) コミュニケーション能力
- (4) 海外での実務上の知識

を挙げることができ、これらを海外職員育成の基本とみなしうる。

6.3.1 業務能力

国内市場において「技術」とは、ダム、トンネル、高層ビルなどの「施工技術」あるいは「施工管理研究開発技術」などと言う部分でとらえられているが、これからの海外市場においてはこうした「狭義」の技術だけでは不十分であると考えられる。

我が国では技術者は、日本の高度成長、品質保証、経済的かつ短期施工、技術革新という時代の要求に合わせた教育が学校、職場で行われてきた。しかしながら前述のように外国で工事を行う場合に求められるエンジニアの資質として、今までにこのシリーズの中で述べられたように、技術はもとより、契約で規定される法律、制度、規則、外国

*熊谷組 海外事業本部海外工務部部長

講 座

での慣行に精通していることが要求されるが、その様な契約社会における基礎教育が日本では十分なされてこなかったと思われる。このことから外国で建設工事に携わる技術職員として、根本的に契約を基本とする環境の中で求められる業務能力を養成する必要がある。

6.3.2 異文化適応力

次に求められるのが海外勤務地への適応力である。気候、風土、歴史、習慣、宗教、風俗、価値観、思考様式等が日本とは異なる中で、相手の考えを日本との比較でなく、相手のレベルで理解し、接触しようとする能力が必要である。

例えば中近東で工事をされた方もあると思われるが、見渡す限りの砂漠、夏には摂氏60℃を越える気象条件、年間の降雨量が数mmだけ、羊やラクダを追って草原から草原へ渡り歩く日々の遊牧生活。こういう生活を過去何千年も過ごしてきた民族。こういう事情を背景にイスラムの思想が育ち、人々の価値観、思考ならびに生活様式が育ってきたわけで、当然日本人のそれとは相当に違うことを十分認

識し、それらに適応する努力が必要となる。

その様な異文化を持っている国において工事を遂行する時、工事完成という目的を達成するためには、異文化に対する適応力によって現地の人々と信頼関係を築いてゆき、たとえお互いに利害が相反する人々とも理解し、認め合う努力が不可欠となる。さらに、できれば日本の社会、文化、さらに日本人そのものをも理解してもらえよう努めることも必要である。

あるキリスト教の国で、日本人のプロジェクトマネージャーが自分の秘書から“あなたの宗教は何ですか”と聞かれ、“私は無宗教です”と答えたところ、相手からこの人は本当に人間なのかと、まるで動物でも見るような顔をされた、ということがあった。外国では信仰は人間として当然であり、無神論は、犬猫の如き畜生程度と考えているところがあり、このようなさりげない言葉が外国人から誤解を招くこともしばしばあるということに十分注意しなければならない。



コーヒーブレイク……1

パプア・ニューギニア現場事務所での話

建築屋A ここ半年もシャワーだけで風呂に入っていないのでたまには風呂につかりたいもんですな。
 建築屋B そやな、土・日あたりそこらのホテルにでも泊まり込んで風呂にでも入ったらどうや。
 事務屋C ほな。ホテルに電話入れてみましょう。
 Do you have a bath tub?

ホテル Pardon?
 事務屋C Bath Tub, not only shower with hot water.
 ホテル OK, OK, everything OK.
 事務屋C エブリシング OK と言うとりまっせ。
 現場所長 何がエブリシングや。この地方のホテルにバスタブ付きの部屋などありませんがな。

6.3.3 コミュニケーション能力

コミュニケーションとは、自分の意志を伝えると同時に相手の意志をも理解し、お互いに意志を通じ合うことであろうが、外国人とコミュニケーションする場合、それぞれが異なった文化を持ったものであるという“違い”を認識することが大切である。日本の場合、自分とは違った意見を持っている人間は、比較的にかかわりを持とうとはしなくなったり、感情的になることがあるといわれている。自己の意見を主張することが当然であり、また他人の意見を尊重することも当たり前である外国においては、十分に相互理解するために“ことば”が必要となる。

例えば日本では“はっきりものを言わない”，または，“知っていても全部言わない”，つまり，“沈黙は金”というような習慣があるが、外国においては、話をしている相

手にしてみれば、日本人ははっきり意思表示をしないから何を考えている人か、敵か味かわからない。外国人はそういう日本人に対して薄気味の悪い人、極端な言い方をすれば意志を持たない木石かと相手に不安感、警戒心を起こさせたりし、また、無視されることもあるという。

研修を受けて海外工事に派遣された職員が、発注者に“私はこういう工事には長い経験がある”と言ったところ、相手はげんなりした顔をした例がある。“Long Experience”と言ったつもりが“Wrong Experience”（間違った経験）と相手に聞こえたという例があり、自分が話をしている情景を相手に十分にわからせないでこのような誤解を招くことも起こる。日本人同志の場合、物事ははっきり言わなくても相手が容易にわかってくれるので、自分の意志を伝えるための訓練がなされていない。



コーヒーブレイク…… 2

カナダ便り LとR, BとV, NとM

最近、英会話の個人レッスンを受け始めた。最初のレッスンでは先生の口から出るのは“Good”, “Excellent”の連続で、自分でも滞在10か月、多少自信を持てたつもりでいたが、2度目のレッスンからはそれも無惨。L, R, S, SH, B, V, N, Mの発音を徹底的に直され、

ひと言発音する度に“No, again”の答が帰ってくる。しまいには口の中にスプーンや指まで突っ込まれそうになりながら、勉強に励んでいる。レッスンを受けて2か月、まだL, Rの発音練習をさせられている。

6.3.4 海外での実務上の知識

日本では相互の責任権利関係を明確にしないで、あるいは独特の根回し的な商慣習により仕事が進むことも少なくないが、これに対し諸外国は契約社会である。工事はすべて契約書の定めるところにより進められ、日々のプロジェクトの遂行、問題の処理は契約書の規定にしたがって行われる。現場の品質管理にしても、仕様書(specification)に詳しく規定されており、発注者はこれらの条項を充足することを要求し、慣れない間は大変面食らいその対応にひきずりまわされることが多々ある。外国では口頭での指示(Verbal Instruction)、口約束(Verbal Agreement)は無効となり、あらゆる発注者、請負者間の指示、承認、要求のやりとりはほとんど文書で処理され、工事報告、図面の授受、設計変更、工期延長、追加費用、クレーム等々すべての事柄は文書で正式にやりとりされるため、往復文書の量は1日何十枚にも上ることもある。

ある国で下請契約を結び工事を開始したところ、最初は何とか進んでいたが途中から下請は全然工事をやらなくなった。再三、再四、元請は工事継続を文章で申し入れたが返事はなく、元請はやむを得ず下請の工事を元請独自で施工し、工事を完了してしまった。ところが、下請は“元請がやった工事は我々下請契約に入っているもので当然我々下請の工事であり、元請は契約金を払うべきだ”と請求してきたのには大変驚いたという例がある。また、外国で工事を行っているとき、契約上のトラブルから下請より裁判に持ち込まれるケースも多々生じる。その場合、裁判になっても解決に時間がかかり、他国の裁判に勝つ目途も立ちにくく、ひどい場合にはいやがらせを受けることもあり、また治安の悪い国では相手が元請の建設機械を略奪しようとしたりする例もある。

まさに「飛んで火に入る夏の虫」という言葉もあるように、たとえ契約を手ぬかりなくやっても、その国のその他諸般の事情に精通していない日本人を食いものにしようと虎視眈々とねらっているというような危険性もあると、聞かされたこともある。

記憶が正しければ“ユダヤ人は自分の子供が人を信じないように教育する”と読んだことがあります。親が子供を

呼び寄せては抱き上げ、そのまま落とすということを何度もし、遂に子供はたとえ親でも信じてはならないという風に育てられる。

日本のように建国以来、外国に侵略されたこともなく、比較的単一民族だけでやってこられた国民と、外国のように他民族の侵略、支配を繰り返し受けたり、また多くの人種が入り混じっている状態では文化の成り立ち、歴史が異なるため、考え方もそれぞれ異なるものと思われる。

イザヤ・ベンダサン著「日本人とユダヤ人」に「日本人は、安全と水は無料で手に入ると思い込んでいる」と書いている。しかし、海外ではなかなかそうはいかず、政治の混乱、治安の悪さで苦勞した工事現場が実際にあることも、日常生活、工事現場での作業上の心構えとして知っていなければならない。このように海外で働くビジネスマンを取り巻く状況は多事多難ではある。しかし、その国の生活に溶け込み、その国の人々との信頼関係、友好関係を強く結んでゆけば、異質の文化を持った人に対して一般的に寛大、親切な外国人と共同生活がスムーズに保てるものと思われる。

6.4 英語研修制度

日本の国力、海外工事への経験等に対応して、英語研修制度にも、次の様な3段階に区分されるだろう。

6.4.1 第1期

表—6.1の第1期とは、海外派遣者が現場で自由に使える英語力を身につけることを目的として、日常業務とは完全に隔たれた集中研修で、研修中は1日10～12時間英語にどっぷり浸り、日本語は一切厳禁というものである。

表—6.1 英語研修のあゆみ

	期 間	ね ら い	能 力	受講期間
第1期	50/7～60/4 (11年間)	海外派遣要員の育成	使える会話力	4か月
第2期	60/5～63/4 (3年間)	国際化戦略に対応できる 人材の育成	使える会話力	4か月
第3期	63/5～今日	対象者 } 別 新教育体系 能 力 }	英語になじむ + 自己啓発できる 能力レベル	2か月

講座

表—6.2 英会話力評価基準

レベル	得点	評価内容
L1-	0～6	実用的知識はほとんどなく、自分の名前をいう事が精一杯。文法力もゼロに等しく、アルファベットは言えるが100まで数えるのには一苦労。
L1	7～12	日時、曜日等がかろうじて言える。まだ英語コンプレックスが強く、グループ学習に対して恥じらいが強い。まだ会話にはならない。
L1+	13～19	簡単な挨拶程度は出来るが、そこまでであとが会話にならない。Yes, No. のみの答しかまだ返せない。映画等でたまに知ってる単語を耳にして感激する。
L2-	20～25	なんとか人の力を借りずに自己紹介が出来る。しかし、これも前もっての準備が必要。質疑・応答となるとよほど簡単でなければならない。
L2	26～32	自分が目下行ってる動作をやっと表現できる。やっと外人と会話する自信がついてきた。道順、物の所在をジェスチャーを通してなら教えられる。しかしヒヤリングが弱いので、間違えた応答も多い。
L2+	33～39	自分の家族、友人の日課、人や場所について叙述が出来る。好き嫌いが言い表せる。簡単な物事に対しては意見を述べられる。
L3-	40～46	外国からのお客様に、会社、工場等の簡単な紹介が出来る。しかし、製品や業務について詳しくは説明できない。
L3	47～53	専門分野におけるビジネス用語を使う事が出来る。日本の風俗、習慣等がある程度は説明出来るようになる。
L3+	54～59	外国に転勤あるいは旅行をしても日常の事なら不自由しない。電話での会話にも慣れてくる。しかし、単独での商談の契約等はまだ無理である。
L4-	60～66	外国での仕事に通用する。会社の製品、業務等を営業的な面から述べ、種々の報告等が出来る。しかし、理論づけて納得させる力はもう一歩足りない。
L4	67～72	会議の席や論文発表会などでは、あまり不自由なく自分の意見を伝えられる。しかし、討論会になるとあと一歩積極性に欠ける。
L4+	73～79	商業・経済・貿易・文化等多分野において一般的な話が出来る。また、これらの中であるものについてはより複雑な意見を述べる事が出来る。
L5-	80～85	通訳なしで商談が出来る。文法的にも70%以上の正確さがあり、第三者の会話にも割り込む事が出来る。
L5	86～92	かなり詳細な指示が出来、約束をとったり破棄したり、弁解や謝罪が出来る。外人が「あなたは英語が上手です」というようなお世辞をいわなくなる。
L5+	(93～)	外人相手にごく自然に英語が話せる。ほとんど Native に近く、自信をもって時事問題等を論じ合える。

表—6.3 会話レベルと他検定との比較表

	20					40					60					80					100																													
会話レベル ポイント	1-	1	1+	2-	2	2+	3-	3	3+	4-	4	4+	5-	5	5+																																			
	0~6	7~12	13~19	20~25	26~32	33~39	40~46	47~53	54~59	60~66	67~72	73~79	80~85	86~92	93~97																																			
TOEIC (READING & HEARING)	300					400					500					600					700					800					900																			
	10------(L1~L1+)					400					280------(L1~L2+)					600					300------(L3~L3+)					700					600------(L4~L4+)					760					800					(L5-)875				
TOEFL	400					500					550					600																																		
英検	3級					2級					1級																																							

※TOEICは、当社研修生によるTOEIC受験結果の分布で、各レベル別の最高点と最低点を表しています。
 ※TOEICとは、Test of English for International Communicationの略称、つまり国際コミュニケーション英語能力テストのことで、英語によるコミュニケーション能力を正確に測定するための共通尺度として実施される世界共通のテストシステムである。
 ※TOEFLとはTesting of English as a Foreign Languageの略。アメリカで勉強する外国人のための英語の学力テストである。

6.4.2 第2期

第2期は、国際化戦略に対応出来る人材の育成というねらいから、第1期同様英会話を主として行い、英語力評価基準は表—6.2、表—6.3のとおりで、この時期におけるレベルアップ度を表—6.4に示す。

表—6.4 過去3年のレベルアップ度

区分	開始時		終了時	
	会話レベル	TOEIC	会話レベル	TOEIC
最高	L3	680	L5	885
最低	L0	50	L2+	380
平均	L1+	295	L3	578



コーヒーブレイク…… 3

研修生の経験談

私は入社後すぐ英語研修を受けた。研修初日に講師の方より「2週間もすれば周囲の雑談は英語に聞こえ、英語の夢まで見るようになります。」と言われ、そんなバカなことがあるわけがないと思っていた。ところが2週間も過ぎると通勤電車内の他人の会話は英語に聞こえ、英語の夢を見るようになった。時には Hard Schedule

のため家に帰れず寮に泊まれば、友達が夜中に寝言で“International Day”（毎週土曜日にある1つの国について調べ、英語で発表する授業）と叫ぶということもあり、“こいつも苦勞しているんだなあ”と思った。2か月も過ぎると英語に対するコンプレックスもなくなり、飲み会などでは自然に英語で喋れるようになった。

6.4.3 第3期

第3期では、一般集中英語研修会と専門別研修会で構成されている。

1) 一般集中英語研修会

前述第1期および第2期の英語研修の形を継承したもの

で、期間は2か月に短縮し、各人のレベルに合った3コース（入門、初級、中級）に割り振られ、受講直前にインタビューテストと TOEIC の研修後の予測スコアから受講者1人ずつに目標値を設定して、1クラス7～8名で研修を行う。



コーヒーブレイク…… 4

オーストラリア便り

普通男子用と女子用トイレの入口に GENTS と LADIES と書いてある。ところが陽気なオーストラリア人は大変なジョーク好き。そのため、TUNNLLERSとTUNNELSと書いてあり、トイレの場所が非常に分かりにく

いうえ、数も少ないのであらかじめ頭に入れておかないと、夜のシドニーの町を冷や汗をたらしながら内股で走り回ることになる。

2) 専門別英語研修会

一般英語研修会修了者で、ある程度の英会話能力を備えた者を対象にして“ビジネス・マネジメント・コース”と“FIDIC コース”の2コースが該当する。

(1) ビジネス・マネジメント・コース

このコースは、英語での会議やビジネス交渉に臨める能力の養成と、ビジネスにおける異文化間コミュニケーション

ンスキルの向上というねらいで TOEIC 600 点以上のレベルの者に対し行う。内容は、プロジェクトマネジャーが現地で行う発注者や、コンサルティング企業との打合せ、資料調達、労働者の調達、原価管理、工期延長等の問題処理をテーマに取り上げ、ロールプレイング（役割演技^{注1)}）により授業を進めるとともに、日本と諸外国との業務の違いも比較検討する研修で、6～9名の小クラス制であり、約110時間のカリキュラムである。このコースでの研修材料の抜粋の英文および和訳例を示す。

注 1) 役割演技とは、ある状況に実際に居合わせているように、特定の役割・行動を受講者に演技させることである。

ABSTRACT OF TEXTBOOK NEGOTIATIONS

I. DIALOG

Background Situation: A Corporation was selected by the client as one of the best three bidders. The company is now engaged in technical negotiations with the client and his consultant.

DEAN: I was reviewing your bid and I think your price for earthwork is too high. Can you justify your costs?

SATO: Yes we can. During our site survey we made

テキストの抜粋 交渉

I. 対話

背景となる状況：A社は、上位最低札3社の内の1社として発注者により選出された。会社は、発注者、コンサルタントと技術的な交渉を行っている。

ディーン：私は、貴社の入札の評価を行っているが、土工事に対する貴社の値段は高すぎると思う。貴社の値段の正当性を説明できますか。

佐藤：ええ、できますよ。現場調査の期間中に我々は、多くの試験ボーリングと試掘を1回行い2つの問題点を発

講座

many boreholes and one trial excavation and discovered two problems. The first problem is a large amount of groundwater, and the other is the presence of underground obstructions.

DEAN: Our test bore data didn't show excessive groundwater.

SATO: But we checked into the matter and discovered that the groundwater level is higher during the season in which we will be excavating.

DEAN: That's true, but we think sump pumps can adequately handle the water problem.

SATO: Based on our data, a wellpoint system is needed to control the groundwater and keep the excavations free of water. Please examine our data and calculations. (He hands the data to Mr. Dean)
I think you'll agree with us.

DEAN: Wellpoint systems are very expensive. The owner wants to keep the costs as low as possible.

SATO: If we don't adequately control the water, we'll have many problems and delays. It will be cheaper in the long run to do it correctly from the start.

DEAN: Well, your data and calculations look good. We'll study this further and let you know. Can you trim your costs somewhere else?

SATO: I'm afraid that's not easy to do without quality or safety suffering.

DEAN: I guess you're right.... Well, what about the obstructions?

SATO: We found old foundations below the surface where the main building and dormitory will be. They'll have to be removed and disposed of, and this costs money.

DEAN: We're not willing to pay any more for this work. You'll have to cut your costs somewhere.

SATO: Hmm...it might be possible to save costs by using some of the excavated soil as fill material. This will offset some of the extra costs.

DEAN: Good, please look into it.

II. VOCABULARY DEVELOPMENT

1. excavation:

- (1) The process of digging earth, rock, or soil.
- (2) A hole or cavity made by digging.

2. groundwater: All subsurface (below the surface) water.

3. sump pumps: A pump that is used to drain pits or tanks at the lowest point of an excavation.

4. water table: The upper level of rock or soil that is saturated with water. Also called groundwater level.

見しました。第一の問題は、たくさんの地下水であり、もう一点の問題は、地下障害物があるということです。

ディーン: 我々の試験ボーリングデータは過度の地下水を示していない。

佐藤: しかし、我々は、この問題について調査し、我々が掘削する時期は地下水位がより高いことを発見しました。

ディーン: それは事実だが、我々は、釜場でポンプアップすれば、十分に水問題を処理できると思うのだが。

佐藤: 我々のデータによれば、ウェルポイントシステムは地下水を抑制し、ドライで、掘削を行うのに必要だと思います。我々のデータと計算を調べて下さい (と彼は、データをディーン氏に手渡す)。私は、この案に同意して下さるものと思っています。

ディーン: ウェルポイントシステムは、大変高価なものです。発注者は費用をできるだけ安くしたいと思っています。

佐藤: もし我々が十分に水を管理できないと、多くの問題が発生し遅延を招くことになるでしょう。工事着工時点から、この工法を適切に行えば長期的にはより安くなるでしょう。

ディーン: 貴社のデータと計算は適切なようだね。我々はこれを更に研究して、あなたたちにお知らせします。どこかほかの部分で費用を削減することができますか。

佐藤: 私は品質と安全性を損なうことなしには、それを容易に行うことはできないのではないかと思います。

ディーン: あなたたちは正しいと思う。ところで地下の障害物についてはどうですか?

佐藤: 主たるビルと寮が建設される予定の地表面下に古い基礎を発見しました。それらは、除去され処分されるべきであり、これに費用がかかります。

ディーン: 我々は、当工事にこれ以上の出費をしたくない。あなたたちは、どこかほかのところで費用を削減すべきである。

佐藤: 掘削土を盛土材として使用することによって費用の節約が可能になるかもしれません。これにより増加費用のいくぶんかを相殺できるでしょう。

ディーン: 良いことだと思う。どうぞ調査して下さい。

II. 語彙利用

1. 掘削:

- (1) 大地、岩石あるいは土を掘ること
- (2) 掘削により作られた穴あるいは空洞

2. 地下水: すべての地表面下の水

3. 釜場ポンプ: 掘削の最も低い地点に作られた集水ます、集水タンクに使用されるポンプ

4. 地下水面: 岩石あるいは土が水に浸っている面。また、地下水位とも呼ばれる

5. wellpoint system: A method of keeping an excavation dry by drilling wells around an excavation and pumping out the groundwater.
6. compact: To pack or press soil (or something else) firmly together. Often compaction is done by rollers or pneumatic hammers.

5. ウェルポイント工法：掘削周囲に穿孔し井戸を作り、これら地下水を汲むことによって乾いた状態で掘削を行うための方法
6. 転圧：土（あるいは別なもの）を堅固に固めプレスすること。しばしば転圧ローラーまたは空圧ハンマーによってなされる



コーヒーブレイク……5

英語研修生談

12年前英語研修を受けさせてもらった。元来学生の頃から英語アレルギーというか、英語に対して拒絶反応が強かった私が、この期間中は青息吐息で勉強し、研修終了頃にはそれなりの自信を持ったのであった。

さて、初めての海外赴任地について、仕事上専門用語が多く使われるため、それらを使って話をされるとテン

ブンカンブン、意味不明。それで先輩に語学力向上早道法を相談したところ、先輩いわく、“夜の繁華街で麗しの君達と話をするのが一番”と言われ納得、“早速実行”と先輩と一緒に毎夜繰り出すことに相成った。アルコールも手伝ってか、その時は自分の会話力の高さに再度自信を持ったが!？。

(ロ) FIDIC コース

このコースのねらいは海外プロジェクトに従事する職員の英語による工事遂行能力の向上と、FIDIC 約款の基本的な考え方や適用方法を学び、約款に関する理解を深めることである。テキストは、実際に起こりうる問題点をFIDIC 約款に照らし合わせながら、受講生がそれぞれの立場に立って討議しながら解決案を見つけ出していくためのものや、コンサルティング業務に関するリスクとその対応や、コンサルティング・エンジニアとしての責任・責務について具体的に問題を取り上げ、ディスカッション形式で授業を進めていくためのものなどが挙げられる。さらに受講生が自分の経験した業務の中から、写真、ビデオ等の資料を使い、プレゼンテーションを行い、その中の問題点を全員で討議を行っていく。ちなみにこのコースでの研修

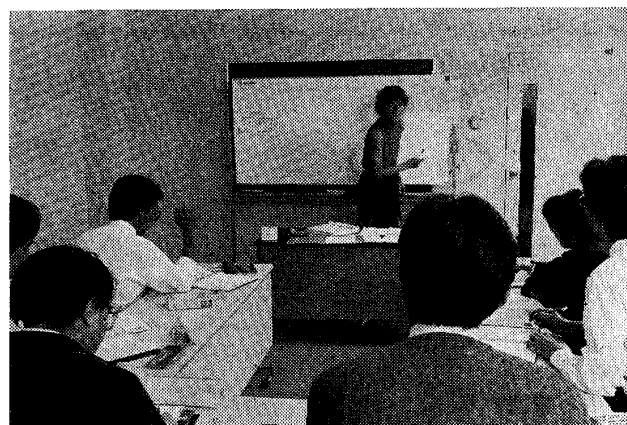


写真-6.1 研修のようす

材料の抜粋の英文および和訳例を示す。

ABSTRACT OF TEXTBOOK

(FIDIC I PAGE 42)

8. Site investigation: A study of the conditions (physical, hydrological, climatic, political, etc.) at the site. Sometimes called a site survey.
 - (a) The site investigation showed that much more clearing work than anticipated would be necessary.
 - (b) The contract requires the contractor to satisfy himself of the sufficiency of his tender by performing his own site investigation.
9. Site data: Information on the physical and hydrological conditions at the site. The site data is usually supplied to the contractor in the tender

テキストの抜粋

(FIDIC I 42ページから)

8. 現場調査：現場の物理、水文、気象、政治等の条件調査。現地調査と呼ばれることもある。
 - (a) 現場調査により予想以上の伐開工事が必要であることがわかった。
 - (b) 契約により、請負者は独自で現場調査を行い、入札書の充足性について満足しているものとみなされる。
9. 現場のデータ：現場の物理的および水文状況に関する情報。現場のデータは通常入札書類の中で請負者に提供される。
 - (a) 現場のデータは非常に正確であった。
 - (b) 現場のデータは疑わしかったので請負業者は独自

講座

documents.

- (a) The site data was highly accurate.
- (b) The site data seemed questionable, so the contractor performed his own investigation.

10. Contour lines: Lines of equal elevation on a topographical map.

- (a) The contour lines are spaced closely in this area, so the ground must be very steep.
- (b) We must take these aerial photographs and make contour maps.

SUBSTITUTION DRILLS

1. What data did you base your estimate on?
projection, design, analysis, decision
2. According to the project manager, the data furnished by the engineer was accurate.
highlyquestionable, erroneous, inaccurate, insufficient, unacceptable

の調査を行った。

10. 等高線：地形図の同じ高さの線

- (a) 等高線の間隔が狭いので地形は急勾配に違いない。
- (b) 我々は航空写真を撮り等高線入りの地図を作らなければならない。

代替の練習

1. 見積, 企画, 設計, 分析, 決定は, どの資料に基づいて行ったか。
2. 現場所長によれば, エンジニアから与えられたデータは正確である, 非常に疑わしい, 間違いがある, 不正確である, 不十分である, 受け入れられない。



コーヒーブレイク…… 6

香港便り

4年と2か月を香港で暮らし、英語の方は気合いを入れて大きな声でゆっくりしゃべれば相手も気合い負けして通じるという真理を発見したのであるが、今度は日本

から送られてくるビデオの中のテンポの早い日本語についていけなくなっているのに驚かされた。近いうちに現代日本語研修が必要となるのではないであろうか。

6.5 終わりに

日本の建設市場に外国の企業が熱心に参入しようとし、さらに、外国流の契約形態を要求するようなことに今後対応してゆかねばならず、一方、日本の建設業者、コンサルタントが海外市場へ進出することも今後一層増加するものと考えられる現在、建設業に携わる者にとってますます「国際人としての資質」が求められている。海外工事は大自然を相手に異なった政治、経済、文化の中で工事をまとめ上げていくため、これを管理する者には語学力、技術力、合理的な物の考え方はもちろん、仕事にチャレンジする精

神および馬力、多くの人を引っ張り、指導し、まとめていく統率力も必要である。したがって、海外へ派遣される人々にはどの国においても人間としての幅、深み、大きさが問われることになる。今後はもっと外国の政治、経済、文化等が理解できる既述のような海外土着主義を徹底し、更に深く突っ込んで外国人の中に溶け込み、外国人と対等につき合える器量のある人間の育成が目標である。

最後に、拙文が今後海外で仕事をされる読者諸氏にいささかなりともお役に立てば幸いである。

末筆ながら健康に留意されますます国内外において活躍されるよう祈る次第である。